

2019年5月30日

～第62回 静岡県版 景気ウォッチャー調査(2019年4月)～

大型連休の反動への懸念から 先行き見通しは悪化

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、4月からゴールデンウィークをはさんで実施した「景気ウォッチャー調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

現状判断（概要）

- 県内景気の「現状判断指数（方向性）」は48.0と、前回1月調査（43.5）から+4.5ポイント上昇したが、景気の“横ばい”を示す指数「50」を4期連続で下回った。
- 大型連休でサービス関連は盛り上がりを見せたが、天候不順等を背景に小売・飲食関連が伸び悩んだ。

先行き判断（概要）

- 2～3カ月先の景況感を示す「先行き判断指数（方向性）」は45.8と、前回調査（50.7）から△4.9ポイント低下し、3期ぶりに「50」を下回った。
- 家計消費関連では、消費増税前の駆け込み需要への期待がある一方で、大型連休の反動を懸念する声も多く、悪化判断となった。
- 事業所向けビジネス関連も、好転要因が乏しく悪化判断が続いた。雇用関連も米中貿易摩擦や消費増税の動向など内外情勢の不透明感から求人を抑える動きがみられ、引き続き悪化判断となった。

※本件のお問い合わせ先 担当（黒田 貴子）

第 62 回 静岡県版 景気ウォッチャー調査 (2019 年 4 月)

大型連休の反動懸念から、先行き見通しは悪化に

2019年4月調査の現状判断指数は48.0で、前回1月調査(43.5)から+4.5ポイント上昇したが(図表1、2)、景気の“横ばい”を示す指数「50」を4期連続で下回った。一方、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数は45.8と、前回調査(50.7)から△4.9ポイント低下し、3期ぶりに「50」を下回った(図表1、4)。

現状判断については、家計消費関連において、大型連休でサービス関連は盛り上がりを見せたが、小売関連や飲食関連が伸び悩んだほか、事業所向けビジネス関連も、原材料費の高騰や利益幅の縮小により悪化判断となった。また、雇用関連も、求人数の減少などから悪化判断が続いた。

先行きについては、家計消費関連では、消費増税前の駆け込み需要を期待する声がある一方、大型連休の反動を懸念する声が多く、3期ぶりに悪化判断となった。事業所向けビジネス関連も、好転要因に乏しく悪化判断が続く。雇用関連も、米中貿易摩擦や消費増税の動向など内外情勢の不透明感から求人を控える動きがみられ、引き続き悪化判断となった。

< 調査結果の要旨 >

(D.I.は次頁「調査の要領」参照)

現状判断 (D.I.=48.0) サービス関連で大幅に改善するも、4期連続で悪化判断

- ・家計消費関連 (D.I.=49.0) 大型連休でサービス関連は大きく改善するも、小売・飲食が不調
- ・事業所向けビジネス関連 (D.I.=46.3) 原材料費の高騰、利益幅の縮小により悪化判断
- ・雇用関連 (D.I.=45.0) 求人数の減少により、3期連続の悪化判断

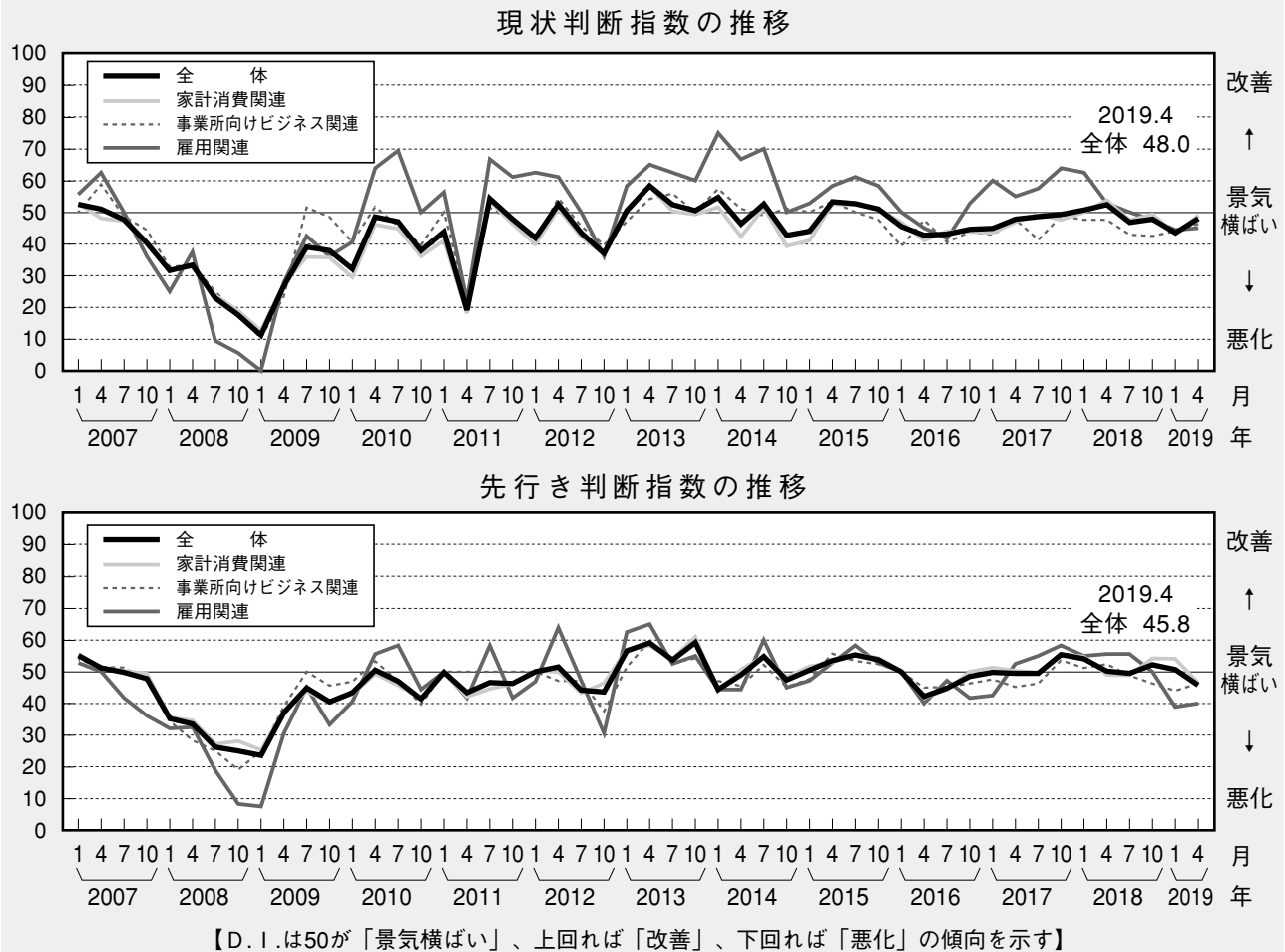
< 現状判断の理由 >

- ・家計消費関連・・・小売関連で「来客数」と「販売量」が伸び悩む
- ・事業所向けビジネス関連・・・「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断
- ・雇用関連・・・採用までの長期化から求人の動きが悪く、悪化判断

先行き判断 (D.I.=45.8) 家計消費関連が振るわず、全体で悪化の見通し

- ・家計消費関連 (D.I.=46.5) 大型連休の反動から、悪化判断に転じる
- ・事業所向けビジネス関連 (D.I.=46.3) 好転要因に乏しく、悪化の見通し
- ・雇用関連 (D.I.=40.0) 内外情勢の不透明感から、悪化判断

図表1 現状判断指数(D.I.)と先行き判断指数(D.I.)の推移



調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象・方法：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
 - ・家計消費関連 (n=72)
 - (内訳) 小売関連 (n=29) …… 百貨店、スーパー、乗用車販売など
 - 飲食関連 (n=8) …… 飲食店、外食チェーンなど
 - サービス関連 (n=25) …… 観光ホテル、旅行代理店など
 - 住宅関連 (n=10) …… 不動産販売、住宅販売など
 - ・事業所向けビジネス関連 (n=20) …… 印刷、広告代理店、運輸など
 - ・雇用関連 (n=10) …… 人材派遣、職業紹介など
- (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断 (3カ月前との比較)/その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など (自由回答)/景気の先行きに対する判断 (2～3カ月先の予想)
- (4) 調査時点：2019年4月下旬～5月上旬
- (5) 回答状況：調査対象108名のうち、有効回答を寄せていただいた方は102名で、有効回答率は94.4%である。

* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化 (下表) し、それらに各判断の構成比 (%) を乗じて指数 (D.I.) 化したものである。これにより、判断指数 (方向性) においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
現状判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
先行き判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

現状判断

サービス関連で大幅に改善するも、4期連続で悪化判断

家計消費関連（D.I.=49.0） 大型連休でサービス関連は大きく改善するも、小売・飲食が不調

家計消費関連の現状判断は49.0と、前回から+5.8ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を4期連続して下回った。小売関連（44.0）では、「4～5月初旬は肌寒い日が多かった」（果物店）、「天候不順により、衣料品販売が苦戦」（百貨店）など天候の影響から悪化判断となった。飲食関連（46.9）では、「客単価が下がっており、売上全体は伸びていない」（外食チェーン）などの声が聞かれた。一方、サービス関連（55.0）では、「静岡デスティネーションキャンペーンや大型連休が重なり、多くのお客様を見込める」（観光施設）など観光分野で明るい声が聞かれ、前回から+11.0ポイントと大幅に上昇した。住宅関連（50.0）では、「ゴールデンウィーク中のハウスメーカー来店客は多いが、契約につながりそうなお客様は少なそうな印象」（住宅・マンション販売）など、大きな動きがみられず横ばいとなった。

事業所向けビジネス関連（D.I.=46.3） 原材料費の高騰、利益幅の縮小により悪化判断

事業所向けビジネス関連は46.3と、前回から+2.3ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を下回った。「年明けからの資材費（用紙、配送費等）の値上りにより、一部価格転嫁させて頂いているものの、売上、粗利ともに厳しい状況が続いている」（印刷）、「仕入価格の高騰で利益が激減している」（同）などの意見が挙げられた。

雇用関連（D.I.=45.0） 求人数の減少により、3期連続の悪化判断

雇用関連は45.0と、前回から+0.6ポイント上昇したものの、悪化判断となった。「新規求人は製造業で前年同月比7カ月連続の減少、主要産業をみても前年同期比でプラスは卸・小売業のみとなっている」（職業紹介）、「建設、福祉分野などの特定業種を除き、求人が減少している」（求人情報誌）など、求人数の減少を指摘する声が聞かれた。

図表2 現状判断指数D.I.の推移

分野	調査時期	2017年			2018年				2019年	2019.4月	
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全 体		47.8	48.6	49.3	50.7	52.4	47.3	47.8	43.5	48.0	+ 4.5
家計消費関連		46.9	49.3	47.6	50.0	53.8	48.3	49.3	43.2	49.0	+ 5.8
小売関連		42.0	40.8	46.4	48.3	45.8	46.0	48.3	40.8	44.0	+ 3.2
飲食関連		50.0	47.2	50.0	40.6	56.3	53.1	46.9	41.7	46.9	+ 5.2
サービス関連		48.1	56.0	44.2	52.8	58.0	46.9	47.1	44.0	55.0	+11.0
住宅関連		55.6	60.0	57.5	55.0	65.0	55.0	60.0	50.0	50.0	+ 0.0
事業所向けビジネス関連		47.6	41.3	48.8	47.6	47.6	42.9	42.5	44.0	46.3	+ 2.3
雇用関連		55.0	57.5	63.9	62.5	52.8	50.0	47.5	44.4	45.0	+ 0.6

<現状判断の理由>

家計消費関連…小売関連で「来客数」と「販売量」が伸び悩む

家計消費関連は、“変わらない”“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「来客数の動き」を挙げる声が多かった。また、「10連休となるも日別の動向に変化があり、トータルでは昨年と同等の実績となった」(スーパー)などの声が聞かれた。また、「3月の決算需要が終わり、しばらく新型車の予定もないため、販売台数は減る」(乗用車販売)など、「販売量の動き」を挙げる意見も聞かれた。

事業所向けビジネス関連…「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“変わらない”“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「用紙の値上げ交渉により、先方が印刷物の発注量を見直す動きがある」(印刷)など受注量や販売量の動きを挙げる声が多く、「クライアントの予算削減のため、仕事が減っている」(広告)など、取引先の様子を挙げる声も聞かれた。

雇用関連…採用までの長期化から求人の動きが悪く、悪化判断

雇用関連では、“変わらない”“(やや)悪くなっている”の判断理由として、求人の動きを挙げる声が多く、「求人企業の採用意欲は底堅いものの、採用コストの見直しを検討している企業が多い」(求人情報誌)、「求人数については3カ月前と変わらない。人材確保が難しいため、採用までの時間がかかっている」(人材派遣)などの声が聞かれた。

図表3 景気の現状判断理由

<家計消費関連(n=68)>

景 気 の 判 断 理 由	来客数の動き	販売量の動き	客単価の動き	お客様の様子	競争相手の様子	左 記 以 外
(やや)良くなっている(n=15)	9	4	2	0	0	0
変わらない(n=35)	17	8	4	5	0	1
(やや)悪くなっている(n=18)	5	10	1	1	1	0

<事業所向けビジネス関連(n=19)>

景 気 の 判 断 理 由	受注量や 販売量の動き	受注価格や 販売価格の動き	取引先の様子	競争相手の様子	左 記 以 外
(やや)良くなっている(n=3)	1	0	2	0	0
変わらない(n=10)	7	2	1	0	0
(やや)悪くなっている(n=6)	2	1	3	0	0

<雇用関連(n=10)>

景 気 の 判 断 理 由	求人の動き	求職者の動き	就職者の動き	窓口の 繁忙度合い	他の人材関連 会社等の様子	左 記 以 外
(やや)良くなっている(n=1)	1	0	0	0	0	0
変わらない(n=6)	4	0	1	0	0	1
(やや)悪くなっている(n=3)	3	0	0	0	0	0

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

先行き判断

家計消費関連が振るわず、全体で悪化の見通し

家計消費関連（D.I.=46.5） 大型連休の反動から、悪化判断に転じる

家計消費関連の先行き判断は46.5と、前回調査（54.1）から△7.6ポイント低下し、横ばいを示す「50」を3期ぶりに下回った。内訳をみると、小売関連（46.6）では、「消費増税前の駆け込み需要を見込む」（百貨店）などの期待が高まる一方、「連休明け後で、客足が鈍くなると同時に、消費の抑えが続くのではないか」（文房具販売）といった慎重な声が多く聞かれた。また、飲食関連（46.9）では、「大型連休の後なので、出費を控えると思われる」（飲食店）、サービス関連（45.0）でも、「ゴールデンウィークでの消費のリバウンドがきて財布の紐が固くなりそう」（旅行代理店）など大型連休の反動を懸念する声が多く挙げられ、先行きの見通しは大きく悪化した。一方、住宅関連（50.0）では、「お客様の様子から、消費増税前の駆け込み需要は期待薄である」（住宅・マンション販売）などの意見から、横ばいの見通しとなった。

事業所向けビジネス関連（D.I.=46.3） 好転要因に乏しく、悪化の見通し

事業所向けビジネス関連は46.3と、前回から+2.3ポイント上昇したが、引き続き悪化判断となった。「紙代のコスト増が大きく、利益が出にくい」（広告）や「人件費の上昇、原料高、ガソリン高騰、消費増税と経営を逼迫することばかりで良くなる材料がない」（社会保険労務士事務所）といった声が聞かれた。

雇用関連（D.I.=40.0） 内外情勢の不透明感から、悪化判断

雇用関連は40.0と、前回から+1.1ポイント上昇したものの、引き続き悪化判断となった。「海外経済の動向や米中貿易摩擦の影響、消費増税など不透明感が漂い、求人を控える動きが続いている」（職業紹介）や「製造業の失速が他の業界にも影響を与え、求人を控える気配が広がってきている」（求人情報誌）などから悪化の見通しとなった。

図表4 先行き判断指数D.I.の推移

分野	2017年			2018年				2019年	2019.4月	
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全 体	49.5	49.5	55.4	54.1	50.2	49.0	52.2	50.7	45.8	△ 4.9
家計消費関連	50.3	49.7	55.6	54.8	49.0	48.3	54.2	54.1	46.5	△ 7.6
小売関連	51.8	44.8	49.1	49.1	46.7	43.5	50.9	50.0	46.6	△ 3.4
飲食関連	50.0	44.4	65.6	56.3	43.8	50.0	53.1	58.3	46.9	△ 11.4
サービス関連	48.1	53.0	59.6	56.7	48.0	50.0	55.2	55.0	45.0	△ 10.0
住宅関連	52.8	60.0	55.0	65.0	62.5	57.5	62.5	60.0	50.0	△ 10.0
事業所向けビジネス関連	45.2	46.3	53.6	51.2	52.4	48.8	46.3	44.0	46.3	+ 2.3
雇用関連	52.5	55.0	58.3	55.0	55.6	55.6	50.0	38.9	40.0	+ 1.1

総括

消費マインド改善に期待、雇用面では内外情勢の動向を注視

今回の景気判断を総括すると、まず現状判断指数は48.0となり、“景気の横ばい”を示す指数「50」を4期連続で下回った。分野別にみると、「家計消費関連」では、サービス関連で、大型連休や静岡デスティネーションキャンペーンの恩恵を受けて大きく改善した一方、小売・飲食では、引き続き悪化判断となった。「事業所向けビジネス関連」では、原材料費の高騰が影響し、「雇用関連」では、製造業をはじめとする求人数の減少から、悪化判断となった。

一方、先行き判断指数は45.8と、前回調査（50.7）から△4.9ポイント低下し、“景気の横ばい”を示す指数「50」を3期ぶりに下回った。「家計消費関連」では、消費増税前の駆け込み需要を期待する声があるものの、大型連休後の買い控えを懸念し、飲食関連やサービス関連では景況感が大幅に悪化した。「事業所向けビジネス関連」では、人件費や原材料費などコスト上昇の影響から悪化判断が続き、「雇用関連」では、米中貿易摩擦や消費増税の動向などから製造業を中心に求人を控える見方が強まり、悪化判断となった。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断は、大型連休の効果から前回調査と比べて改善幅はプラスとなるも、全体では悪化判断となった。先行きについては、大型連休の反動減やコスト増など好転要因に乏しく、雇用面でも停滞感が続くと思予想される。先が見通しにくい状況になりつつある中、消費マインド改善に向けた消費喚起策に期待がかかるとともに、雇用においては内外情勢の動向を注視していく必要がある。

（黒田 貴子）

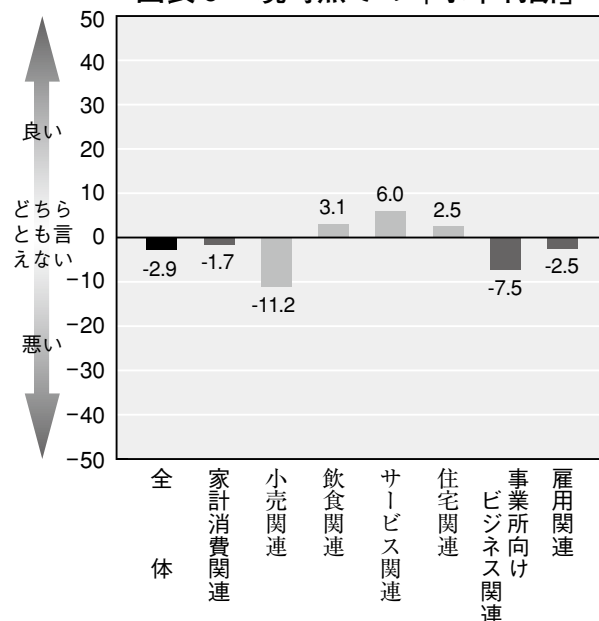
<参考>

現時点の景気は、小売関連の不調から、全体で“悪い”が続く

現時点での景気が“良いか悪いか”を聞いた「水準判断」は△2.9と、前回調査(△6.3)を+3.4ポイント上回ったが、基準値「0」を下回った（図表5）。

内訳をみると、家計消費関連は、飲食関連（+3.1）、サービス関連（+6.0）、住宅関連（+2.5）で“良い”という判断となるも、小売関連（△11.2）で“悪い”の判断が目立ち、全体では△1.7となった。事業所向けビジネス関連も△7.5、雇用関連も△2.5となり、“悪い”との判断となった。

図表5 現時点での「水準判断」



※現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもの。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。